

## 地域の生徒数減少と 本校の現状について

教頭 立石 隆博

昭和三十一年には一三五万人を数えた秋田県の人口が、平成二十一年には一〇九万人余りとなり、将来平成三十二年には九七万人となると予想されています。人口減の最大の原因は、出生数の減少でありますが、昭和三十年の出生数約三万一千人に対し、現高校一年生年代の平成六年生まれは一万五百人となりました。

### 秋高祭の現状

創立一三七年という秋田高校の長い歴史の中で、脈々と受け継がれてきた「秋高祭」はこれまでも様々なドラマがあったものと思われませんが、そうした伝統を踏まえたいうえで未来に向けて新たなステップを踏み出すために、一昨年の「零(ゼロ)」、昨年は「礎(いしずえ)」、そして今年度は「灯(あかし)」をテーマとして開催されました。そこには、秋高祭での取り組みが、今後の学校生活や人生での「灯火(ともしび)」になればとの思いが込められていました。ところで近年は、学校行事

昨年の本県の出生数が約七千人であったことから、今後も少子化が進行していくことが必至です。

さて本校の学校規模を見ますと、昭和二十四年に普通科八学級を設置し、二年後の昭和二十六年の男女共学化とともに十学級の体制となりました。その後平成十二年に学級減により九学級となるまで、

の見直しや生徒数減による生徒会予算の削減などにより、秋高祭自体も例外ではなく、一昨年に開催期間を一日半と半日ほど縮減し、予算も厳しく抑える方向に進んでいましたが、そこは行事企画委員会や執行部の生徒たちを中心に何度も議論や工夫を重ね、質を落とさないように取り組んできました。

まず、「クラスデコレーション」を「クラスサタイヤー」に企画を変更しました。「サタイヤー」とは「風刺」の意味で、国内外の出来事を鋭く風刺し、作品として表現

ほぼ五十年にわたり、各学年十学級の偉容を誇ってきました。また、この間、昭和三十一年代や四十年代には一学級五十人を超える入学者があり、一学級五十五人、全校では千六百人を超えた年もありました。昭和五十年代以降は、県全体の生徒減に合わせ学級定員を少しずつ減らし四十人学級とし、また地域ごとの生徒数を見ながらの学級減や学校統合を進めてきましたが、本日も前述のように平成十二年に一学級を減じて九学級に、そして平成十五年にはさらに一

していくものでした。結果として今年度はやや事前の準備不足の面は否めないものの、これからも世の中の様々な出来事を高校生の目線で鋭く切り込むことに取り組んで行ければと考えています。

## 「コミュニケーション」が功奏す 「カレーのお店」も大盛況

次に、昨年より秋田市内の高校の生徒会長を招きシンポジウムを開催する企画を新設しましたが、その中では「高校生が取り組む地域の活性化」の今後の可能性を探りながら活発な議論が交わされま

学級減じて現在の八学級体制になっていきます。入学定員は平成十二年度からは三六〇人、平成十五年度から三二〇人、そして平成十八年度からは理科定員を五名減じて三一五名となり現在に至っています。平成二十三年度の募集定員を全県的に見ますと、八学級の募集は本校のみとなり、それに続くのは秋田南高校の七学級、秋田市以外の地域の中心校はいずれも六学級の募集です。

また平成十七年度より、学区制が撤廃され、居住地に關した。さらには、昨年四月に「学食」の業者が撤退したあとを埋める企画として、出店とは別に職員・生徒有志による秘密のレシビでの「カレーライスのお店」を開きましたが、

行列ができるほどの大盛況となりました。

最後に体育館の新築のため、

これまでのイベント広場のスペースが狭くなったことから、同所で行われていた「夜祭」は旧体育館跡地で開催されることになりました。しかし、旧体育館解体による基礎の瓦礫や大きな石などが一部残っ

わりなく県内どの高校へも進学することが可能となりました。本校の場合この学区制廃止による変化は大きなものではなく、現在の入学者の80%は秋田市内から、県北・県南地区からの入学者は5%程度と大きな変化はありません。県内小中学校の今後の生徒数の変化を見ますと、下げ止まった地域もあるものの、秋田市は今後も減少を続け、人口が大きい分だけ減少数も大きく、本校を含めた秋田地区のさらなる学級減は避けることができないようです。

ていたこともあり、安全確保の面で開催自体が危ぶまれましたが、ここでも夜祭部門のスタッフを始めとして生徒・職員による手作業での石拾いや整備のおかげで無事開催にこぎ着けることができました。

いずれにしても、秋高祭がある程度の成果をあげることができたのは、今年度の秋高三大行事全体のテーマである「コミュニケーション」が功

を奏したものと思われま。同窓生の皆様方には今後とも生徒会や秋高祭をはじめとする秋高三大行事へのご指導・ご協力をいただければ幸いです。

生徒会顧問 伊藤成孝